

## トピック — さといもの需給状況 —

9月30日は、今年の中秋の名月であった。別名「いも名月」と呼ばれ、収穫したさといものを供する習慣がある。

さといもの収穫のピークは10月頃。気温の低下に伴い食卓に多く上る煮物や東北地方の芋煮、お正月のおせち料理等に欠かせない食材となっており、収穫され、貯蔵されていたものを始めとして需要に応じて出荷されている。

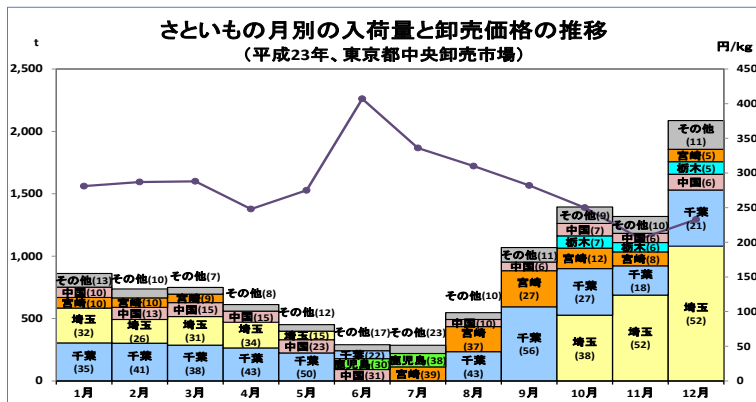
ところで、さといもの購入数量は、地域差が大きいという特徴がある。1人当たりの年間購入数量は、全国平均で697gであるが、大分市や熊本市はその2倍近い購入数量となっている。一方、札幌市、青森市や那覇市は1/2程度であり、大分市と那覇市とは10倍以上の開きがある（他の指定野菜の購入数量の地域差は2～3倍程度）。さといものは収穫量の6割程度しか出荷されず、

① だんご汁や田楽等の郷土料理の食材となって食べられてきた地域がある一方で、

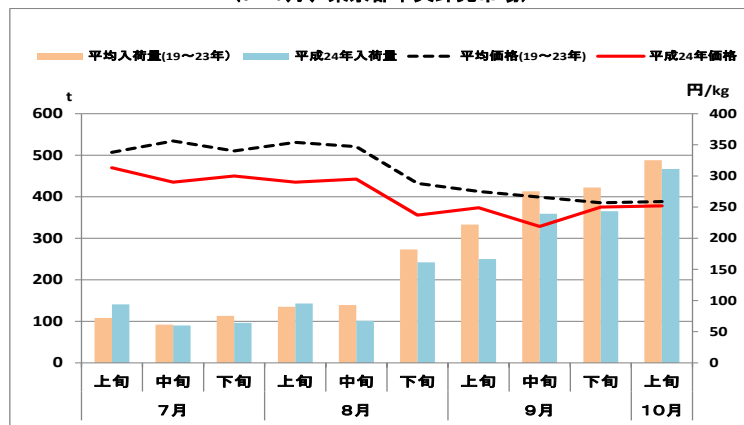
② 元々さといもの生産がほとんどなく、田芋等の代替食材が生産されてきた地域があること等から、このような状況になっているのではないかと考えられる。

今年の8月中旬から10月上旬までのさといもの需給動向は、主産地の宮崎産が台風の影響で収量減となり、入荷量が下回ったものの、夏の猛暑やその後の残暑の影響により、煮物需要が振るわず、需要が減少したことから、価格は平年を下回って推移している。

今後は、需要が多くなる時期となるが、主産地の埼玉産が少雨による小玉傾向で、出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年よりやや高めに移すと思われる。



資料：東京都「平成23年東京都中央卸売市場年報」

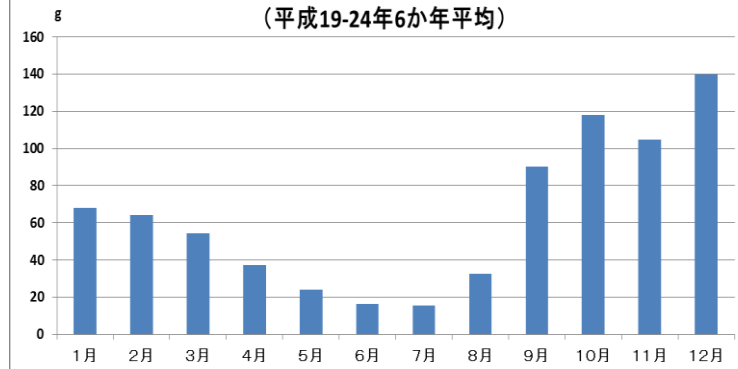
さといもの入荷量と卸売価格の推移  
(7～9月、東京都中央卸売市場)

資料：青果物情報センター

さといもの年間の購入数量上位5県と下位5県  
(平成23年、都道府県庁所在市) (単位:g)

	都道府県庁所在市	1人当たり購入数量
1	大分市	1,363
2	熊本市	1,212
3	名古屋市	1,082
4	岐阜市	1,060
5	山形市	1,005
	全国平均	697
43	岡山市	394
44	高松市	388
45	札幌市	305
46	青森市	269
47	那覇市	134

資料：総務省「家計調査（二人以上の世帯）1世帯当たりの購入数量、都道府県庁所在市別」

さといもの1人当たりの月別購入数量の推移  
(平成19-24年6か年平均)

資料：ベジ探(原資料)総務省「家計調査(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html) に掲載しています。